

びょうもんだい きくちけいふうえん
ハンセン病問題と菊池恵楓園

忘れないこと。

くまもとけんこうし
熊本県合志市



人は「分からない」ことを怖がります。

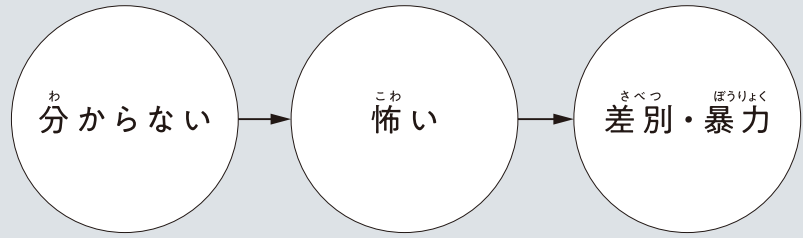
恐怖から差別や暴力が生まれ、

その先には不幸しか残りません。

「分からない」ことを「分かろう」として、

正しいことを知れば、

世界はもっと幸せになります。

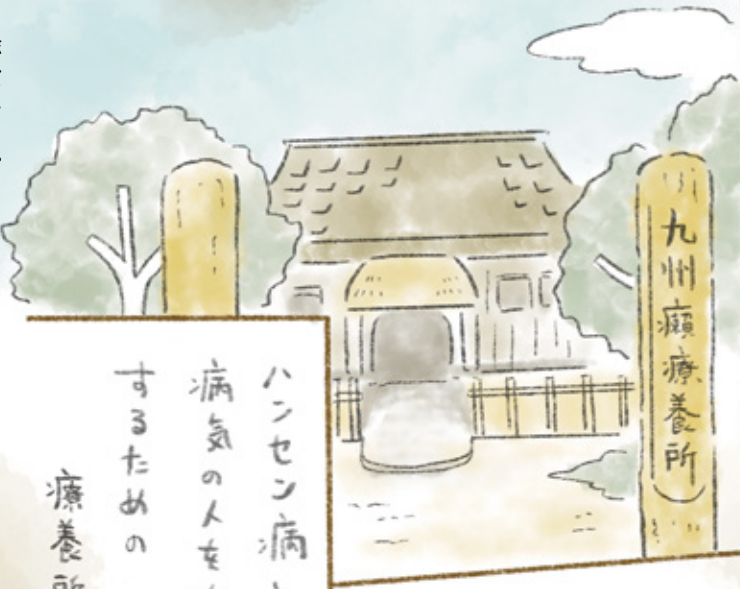




日本最大の国立ハンセン病療養所。療養所は、医療の場であり生活の場でもあります。園内には、治療棟・福祉棟・生活居住棟・公園などが整備されています。



都市部に近く、交通の便や子育て支援が充実し、災害が少なく自然豊かで、住環境も整っていることから住みよいまちとして知られ、人口が増えています。また、農業や商工業も盛んで、自然・住環境・農業・企業立地がバランスよく発展しているまちです。



目最初にココが
できたのは1909年

ハンセン病という
病気の人を治療
するための
療養所だったの



当時は薬がなくて

この病気は
今では特效薬で
50%とだけ



うつつから
は近よるな!
なんてモグリイ
されていたの

日ごりの行けが
わるいから
バキが当たったんだ

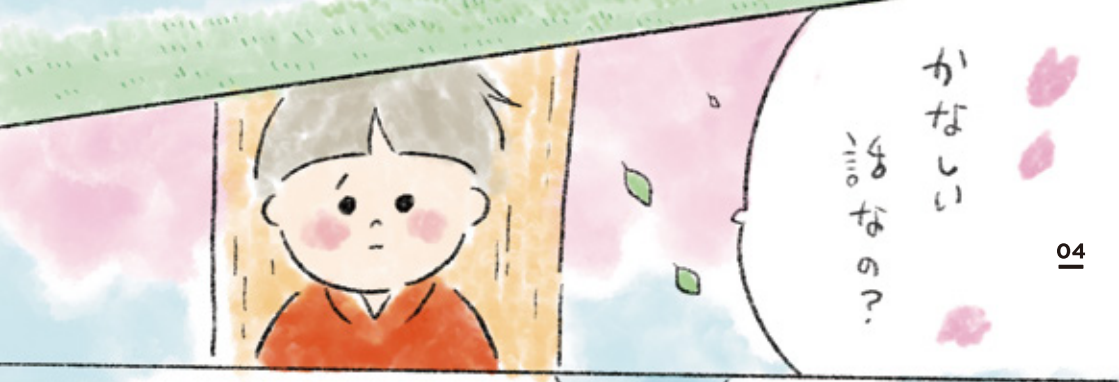
★
ハンセン病って
どんな病気なの?
★

らい菌に感染して起こる病気で、昔は「癩病」と呼ばれてい
ました。発病すると、手足の神経麻痺や汗が出なくなる、感
覚の喪失、身体が変形するといった症状が現れます。治療法
がない時代は、障害などの後遺症が残ることも。



きびしい時代を
生きた人たちの話よ

お話を聞いてくれる?
ココで本当に
おこった



かなしい
よなもの



そっね...
でも...
それだけじゃない
だから最後まで
きいてほしいわ

なぜ合志市に
選定されたの?

日本で最初のハンセン病政策である「癩予防ニ関スル件」に
基づき、九州7県連合立九州癩療養所として1909年、現在
地に開設。市街地に近く広大な敷地が必要だったためにこ
の地が選定されました。

とんどん
病気の人に対する
ものとは思えない
状況に
なっていくの



イヤがりされてはいたけど
まだ治療が大事と
考えられていて
明治時代の有力者、
渋沢栄一・大隈重信も
ハンセン病に関心を
示したや
ちよつとんぞかしいよわ
ごめんね
とにかくね、入所したら
病気を治せるって、
思われてたのよ



「らい菌」はもともと感染する力が弱く、たとえ感染したとしても、発病する力はとても弱い細菌です。現在の日本の衛生状態や、生活や医療の環境を考えると、感染することや発病することはほとんどありません。

当時の環境では
ひどくなると
ヒフがただれたり
手足を失ったりすること
もあつたから、
こわがられてしまつて
みんな世間の
偏見が広まつて...



他の人に
感染するの？

「らい菌」はもともと感染する力が弱く、たとえ感染したとしても、発病する力はとても弱い細菌です。現在の日本の衛生状態や、生活や医療の環境を考えると、感染することや発病することはほとんどありません。

1931年
「患者は全て
とじこめてよい」
という法律が
こまて...



「らい予防法」
を知ろう



「らい予防二関スル件」(1907年制定)が1931年に「癩予防法」となり、日本中の全てのハンセン病患者を療養所に隔離できるとされました。1953年に改正され「らい予防法」として引き継がれ、1996年にやっと廃止されました。



なぜ隔離政策がとられたの？

明治時代になって、文明国として患者を放置していると諸外国から非難を浴びた政府が、ハンセン病患者を一般社会から隔離することとしたため、人権を無視した絶対隔離政策がとられました。



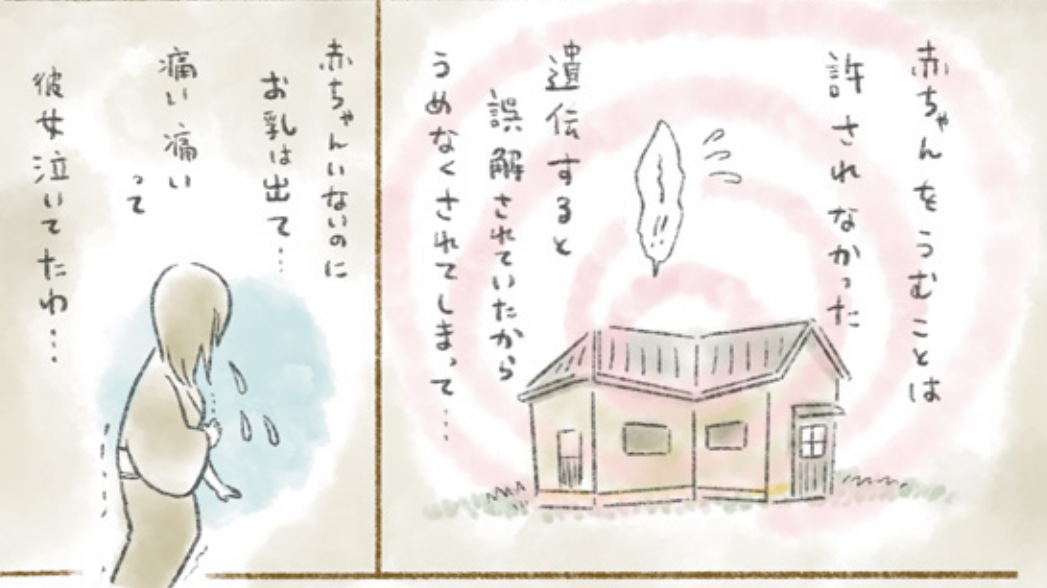
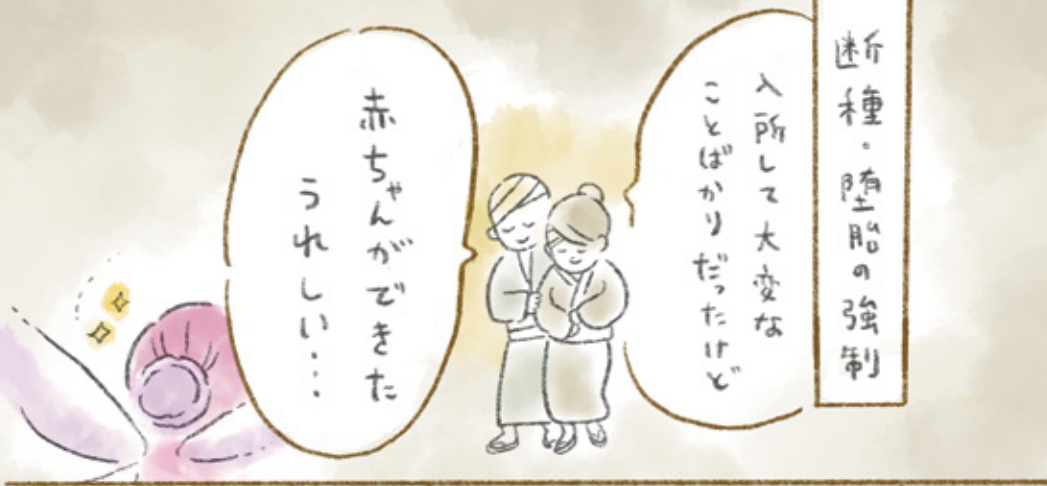
※回春病院のこと



「無らい県運動」を知ろう



「らい予防法」成立後、ハンセン病患者が一人もいないことを目指し、患者を密告させ、療養所へ送り込む官民一体の「無らい県運動」が行われました。その結果、ハンセン病が「恐ろしい伝染病」という誤った認識を社会に植え付けました。



赤ちゃんを産むこともできなかった

ハンセン病は遺伝するといふ間違った知識や、優れた子孫だけを残そうという国の誤った考え方により、患者には断種・堕胎が強制されました。人工妊娠中絶手術により生まれてくることができなかった子どもは数千人に及びます。



人権がないがしろにされた療養所生活

患者たちは患者付き添い作業(症状の軽い者が重い者の世話をする)のほか、道路工事のような重労働も行いました。手足の感覚がないため、作業中にケガをしても気付くことができず、指や手足を失ってしまう人もいました。





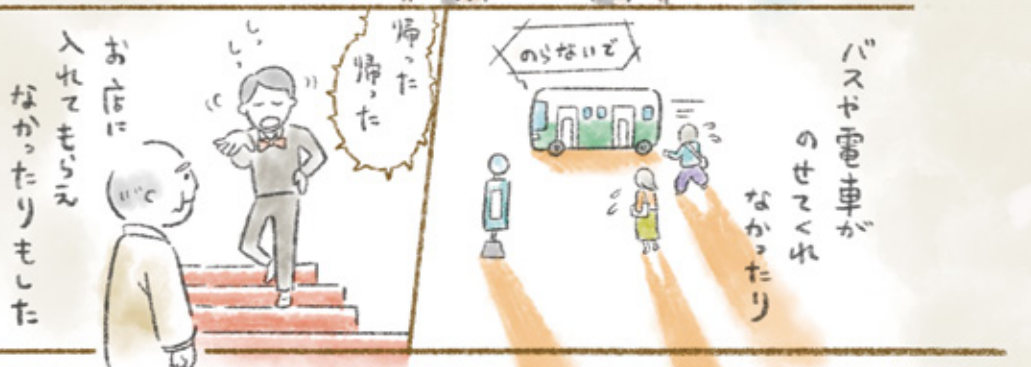
治る病気になっても 隔離された患者たち

無らい県運動は、人々にハンセン病に対する恐怖心を植え付けました。特効薬の登場により適切な治療で治る病気となった後にもかかわらず、1953年に「らい予防法」が成立。終生隔離は継続され、多くの人は一生出ることができませんでした。



治療法はあるの?

1943年、米国で「プロミン」が効くことが報告され、日本では1949年から広く使用されました。後に様々な薬が開発され、現在は WHOの推奨する3種類の飲み薬を組み合わせ、服用する多剤併用療法(MDT)が行われています。



こっかばいしやうせいさくのう
国家賠償請求
訴訟の提起

1996年「らい予防法」が廃止され、約90年続いた隔離政策は終わりました。1998年、療養所の入所者たちによる「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」が熊本地方裁判所に提起され、2001年に国の責任を認める判決が確定しました。



家族に向けられた
偏見と差別の目

偏見と差別による弾圧は、家族にも向けられてきたため、家族は身内にハンセン病の入所者がいることを隠してきました。隔離政策は、家族の心までも分断しました。しかも、こうした家族の被害も、長い間社会的に隠されてきました。

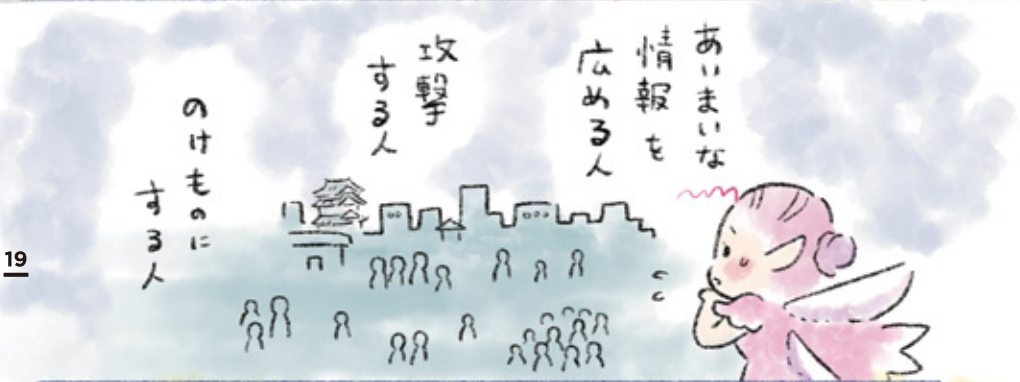
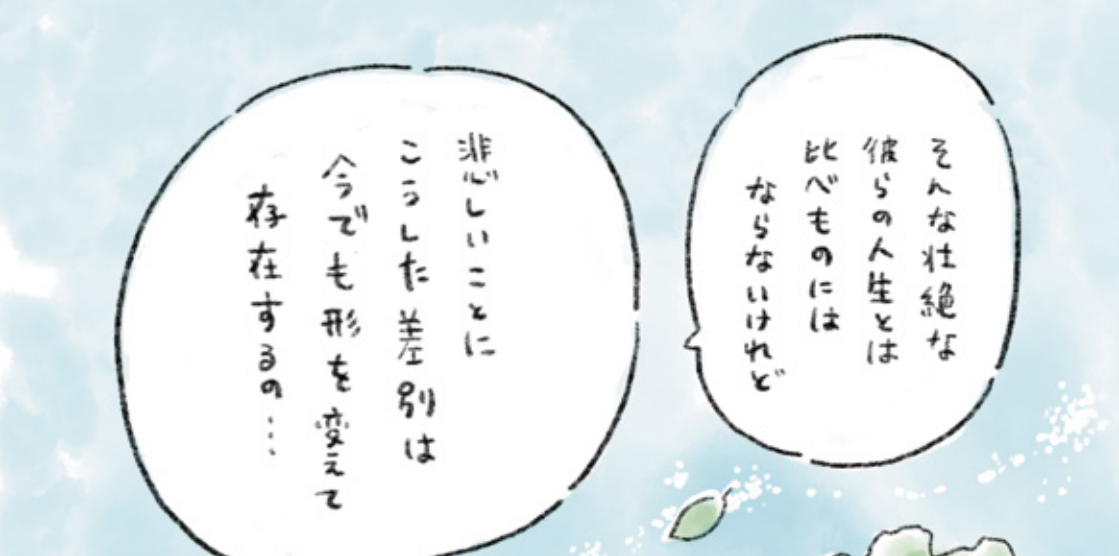
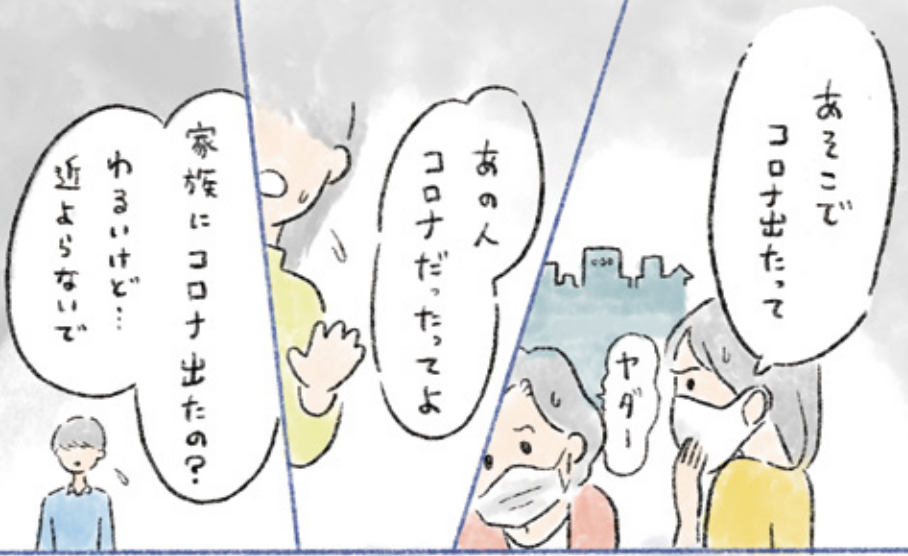


これからの課題

裁判で勝っても、2003年に熊本で宿泊拒否事件しゆくほくきよひじけんが起きました。被害者である入所者側になぜか嫌がらせが殺到し、入所者の心を深く傷つけました。根深く残る差別・偏見へんけんに立ち向かうには、事実を正しく知り、伝えていくことしかないのです。

裁判に勝っても故郷には帰れなかった

隔離政策による偏見や差別が根深く残っているため、多くの入所者は今も療養所で暮らしています。家族に迷惑が及ぶことを心配して本名や戸籍こせきを捨てた人もいて、死後も故郷のお墓に入れず、療養所内に納骨された方も多くおられます。



ハンセン病問題を学び、伝える

このパンフレットを通して、菊池恵楓園の長い歴史とそこで生きてきた入所者たちの苦難の歴史を知っていただければありがたいです。

ハンセン病は医学的には治癒する疾病になりましたが、まだ偏見が根強く残っており、社会的には解決していません。

偏見と差別の最大の敵は無知と無関心です。ハンセン病について正しく理解して不条理な「差別の連鎖」を乗り越えて、お互いを理解し、お互いを尊重し、お互いの命を大切にする人権意識がさらに高まることを願っております。

菊池恵楓園入所者自治会

合志市では例年、総合センター“ヴィーブル”において「人権フォーラム」を開催し、ハンセン病問題について市民がともに学びともに考える場としてきましたが、令和3年度は趣向を変えてマンガ版パンフレットを制作し、特に若い世代に訴えかけることとしました。

これは市の「アニメ・マンガを生かしたまちづくり」の一環であり、社会福祉法人ふれあい福祉協会によるハンセン病対策促進事業の支援を受け、市クリエイター塾（市主催の映像クリエイター育成事業）にマンガ化を委託して実現したものです。また、菊池恵楓園入所者自治会をはじめ関係者の方々に多大なご協力をいただきました。皆様方に、厚くお礼を申し上げます。

このマンガ版パンフレットが広く永く活用され、ハンセン病問題をはじめあらゆる差別のない社会の実現に向けて前進していくことを願ってやみません。

熊本県合志市

協力 国立療養所 菊池恵楓園入所者自治会
熊本県健康づくり推進課

発行 合志市人権啓発教育課

マンガ キリ / @kiriillust
編集・デザイン 佐藤かつあき / @satokatsuaki
製作 HUB. CRAFT / @Hubcraftinc1
製作協力 合志市クリエイター塾

厚生労働省の委託により、社会福祉法人ふれあい福祉協会が実施しています「ハンセン病対策促進事業」の助成を受けて作成しました。

2022(令和4)年3月

